

高等学校教材

日语泛读

第一册

外语教学与研究出版社

高等学校教材

日语泛读

第一册

主 编 王秀文
副主编 李庆祥

外语教学与研究出版社

(京)新登字 155 号

图书在版编目(CIP)数据

日语泛读 第一册/王秀文主编;李庆祥副主编. -北京:外语教学与研究出版社,2000.8

ISBN 7-5600-1907-2

I. 日… II. ①王… ②李… III. 日语-阅读教学-高等学校-教学参考资料 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2000)第 30816 号

版权所有 翻印必究

日语泛读 第一册

主 编:王秀文

副主编:李庆祥

* * *

责任编辑:薛 豹

出版发行:外语教学与研究出版社

社 址:北京市西三环北路 19 号(100089)

网 址:<http://www.fltrp.com.cn>

印 刷:北京师范大学印刷厂

开 本:850×1168 1/32

印 张:6.375

字 数:123 千字

版 次:2000 年 8 月第 1 版 2000 年 8 月第 1 次印刷

印 数:1—11000 册

书 号:ISBN 7-5600-1907-2/G·816

定 价:8.90 元

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

修订版说明

本套教材（原书名为《现代日语阅读教程》，共四册，高等教育出版社）自1994年9月陆续出版以来，被国内许多大学日语专业选用，对促进日语教学起到了一定的作用。由于出版量有限，近几年出现了供不应求的现象，故决心重修再版，以满足教学需要。

另外，经过几年的使用，有些文章内容已显过时，同时在使用过程中也发现了一些问题急需修正。故此次重版，我们在保持原来体系的情况下，更换了近三分之一的文章，使内容增强了时代感和可读性。同时，对一些印刷错误及练习中的不当之处做了最大限度的纠正。

尽管如此，书中肯定还会存在一些不尽人意之处，敬请广大师生继续不吝赐教，以便不断修改、完善。

此次修订再版得到了外语教学与研究出版社日语工作室的支持和无私协助，在此表示衷心的感谢。

直接参加本册修订工作的有：大连民族学院教授王秀文、讲师刘俊民以及在该院任教的两位日本籍教师。

编者

1999年岁末

原版编写说明

《现代日语阅读教程》是为适应我国日语教育的发展和日语教学的需要而编写的辅助性教材，主旨在于通过有指导的大量阅读，提高学生阅读理解和外语思维、分析的能力，巩固所学的语言知识，扩大知识面和词汇量，丰富日语语感等，以达到运用日语进行交际的目的。适用于日语专业的泛读课、大学日语的阅读课和各类日语教学单位的教学，也可供广大自学日语的人员使用。

本套教程分为四册，每册 25 课，供教学单位选择使用。每课由课文、ことばの説明、練習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ等部分构成。课文选入的文章均系原文，并力避国内其它教材中已出现的文章。文章长度以1,500 字左右为起点，渐次增加至3,500 字左右，在编排上考虑了难易程度的循序渐进、由浅入深。选材时充分注意了文章的思想性、实用性、知识性、科学性和趣味性，同时也兼顾文章题材的广泛性和体裁的多样性。为扩大学生视野和知识面，还特意选用了个别从语法和句子结构角度来看不是太规范的文章。

“ことばの説明”部分，从课文中提出影响阅读、理解的词语 2% 左右，标注日语读音或汉字，并注以中文对应词或解释。对少量意思上一目了然，但发音有些难度的汉语词汇和一般性人名、地名等在课文中标注“振り仮名”。《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》中规定的词汇原则上不予提出。

练习的编写以努力提高学生的理解能力和突出它在教学中的指导性作用为原则。“練習Ⅰ”以词语练习为主，从课文中提出与文章理解密切相关的词语（包括语法现象）5 个左右作为问

题，每个问题后设答案若干，以选择的方式进行语义及用法方面的练习。“練習Ⅱ”以内容练习为主，从课文中提出与文章内容的理解密切相关的问题（包括语法现象）5个左右，结合文章内容在每个问题后设答案若干，供选择练习。“練習Ⅲ”结合文章的主题思想和中心内容提出问题2个左右（本项练习从第一册第16课开始设），供学生从语篇的角度进行思考、分析和概括。“練習Ⅳ”为快速阅读部分，每课选择一篇题材和内容与正文相近的短文为语言材料，并从中提出3个左右的问题以选择的方式供理解练习。短文亦均选用原文，选用标准与课文部分相同。这一部分为教学上的补充内容，在时间要求和教学方法上可作更灵活的处理。

《现代日语阅读教程》1~4册由王秀文（辽宁师范大学）担任主编、李庆祥（山东大学）担任副主编。第一册由王秀文、关春影（辽宁师范大学）、刘淑梅（山东大学）、李庆祥编写，在辽宁师范大学任教的高岛康子先生审校了全文。

由于我们经验不足、水平有限，加之时间仓促，错误及不当之处在所难免，欢迎日语界同仁及同学们批评指正。

本套教程第1、2册曾由部分日语专家、教授开会审定，参加审稿会的有（依姓名笔画序）：于长敏先生（中国高等学校外语专业教学指导委员会委员、吉林大学外语学院院长、教授）、尹学义先生（中国高等学校大学外语教学指导委员会委员、国家教委高等教育出版社编审、教材发展研究所研究员）、刘和民先生（中国日语教学研究会顾问、大连外语学院教授）、刘耀武先生（中国日语教学研究会会长、黑龙江大学外语学院副院长、教授）、胡振平先生（中国高等学校外语专业教学指导委员会委员、中国日语教学研究会常务理事、洛阳外语学院教授）、徐祖琼先生（中国高等学校大学外语教学指导委员会委员、日语组副组长、中国大学外语教学研究会副会长、复旦大学教授）。审稿会

上，各位专家、教授对本教程给予了充分肯定，并提出了许多宝贵的意见和建议，对此谨表衷心的感谢。

本教程选用的文章涉及到很多作者，由于种种原因难以查询、联系，敬请各位作者谅解，同时在此谨表诚挚的谢意。

最后，本教程的编写和出版得到高等教育出版社外文编辑室主任尹学义先生的大力支持和帮助，特表谢忱。

编者

目 録

第一課	練習と人生	1
第二課	東京の悩み	8
第三課	アジアと日本	15
第四課	日本の水資源	22
第五課	方言	30
第六課	都会といなか	38
第七課	またとない天敵	45
第八課	赤帽子・青帽子	52
第九課	「2分半」	59
第十課	かぶき	66
第十一課	10年目のふるさと	74
第十二課	集団論理と日本語	82
第十三課	日本昔話	90
第十四課	日本昔話について	97
第十五課	日本の植物	105
第十六課	わたしの考え	113
第十七課	現代の子供	120
第十八課	端午の節句	128
第十九課	日本人の好きな言葉	136
第二十課	父親の存在	144
第二十一課	日本の風土と文化	152
第二十二課	お正月	160
第二十三課	和風旅館の魅力	168
第二十四課	「むかつく」ということ	176
第二十五課	ロザリオの鎖	184

第一課 練習と人生

人間は、不可能と思われたことを、つぎつぎと可能にしてきた。たとえば鳥のように空を飛ぶことは、人類が大むかしから持っていた願ひであつたが、今日では、飛行機によって、どんな鳥よりもよく空を飛ぶことができるようになった。同じように、魚のように水をくぐりことも、むかしは不可能であつたが、今は潜水艇などによって、どんな魚よりもよく水をくぐることができるようになった。月の世界に行くなどといえ、むかしは、まったく実行不可能な空想であつたが、今は、それが夢ではなくなろうとしている。

人間は、どのようにして、不可能を可能にしてきたのだろうか。わたしは、それは発明と練習によって行なわれたのだ、と思っている。飛行機が発明されて、空を飛べるようになったのだが、私は、自分で飛行機を操縦して空を飛ぶことはできない。飛行機を操縦するためのきびしい訓練を受けていないのだから、そんなことができようはずがない。

わたしは、先ごろ、アメリカの宇宙旅行の研究所を視察した。そこには、われわれが見ても聞いてもわからないような、複雑な機械や装置が設けられていた。それとともに、そこで、飛行士たちがとても厳しい訓練を受けているのを見た。宇宙旅行という不可能を可能にする仕事に、多くの発明が使われるとともに、きびしい練習が積まれているのである。

練習によって不可能を可能にする例として、水泳のことを考えてみよう。生まれたままの人間は、水に落ちるとおぼれて死ぬ。水泳を練習した者は、すぐに手足を動かして浮かぶ。人は、おぼれて死ぬ動物から、浮かんで生きる動物に変わるのである。これは、考えてみると、別種の生物になるというほどの

ひやく
飛躍だ。

このように、練習によって不可能が可能になることは、われわれの身のまわりを見わたすと、ほとんど無数にある。野球のことを考えてみよう。野球を習ったことのない人にたまを投げてやると、決まって、たまが通ってしまったあとの空気を両手でつかむ。こうした人には、飛んで来るたまをバットという棒で打ち当てることは、人間わざとは思えないだろう。投手板から本塁に向かって、あるいはまっすぐ、あるいは右に曲げ、左に曲げというように、思いのままに投げるとあつては、ほとんど信じがたいと言うほかないであろう。

このように、練習によって、われわれは、肉体的な能力を発達させることができる。そればかりでなく、練習によって、精神的な能力を発達させることもできるのである。水泳の高飛びこみの場合を考えてみよう。飛び込みは、高さ十メートルの所から行なうものである。初めてこの台に立った者は、だれでも、おそれずにはいられないだろう。十メートルの高さから落ちたものが水をたたき力は、そうとうはげしいもので、飛びこみの選手がかぶっている布の帽子は、練習を続けているうちに、さけてぼろになってしまうという。ところが、練習をした青年は、こうした衝撃をおそれない。男ばかりでなく、少女も平気である。高い台のはしから、身をおどらせて、美しい形で水中に突入する。飛びこみ台のはしに立って、足がすくんですわりこんでしまうのがふつうの人なら、かれは、みなすばらしい勇者である。その勇氣は単純なものかもしれない。しかし、おそれにひるまないということは、りっぱな人間の美德である。勇氣という徳が、練習によって高められたのである。

ただ、練習というのは、けっして楽なものではない。それは、努力と辛抱しんぼうとを必要とする。それは、水泳の練習ひとつ

をとっても明らかであろう。したがって、努力と辛抱を嫌う者には、練習できない。そのような練習ぎらいはいつの世にもあるが、このごろ、努力すること、辛抱することを嫌う傾向があるのではないだろうか。

前に述べたように、肉体的能力ばかりでなく、われわれの精神的能力も、また、明らかに練習によって高められるのであるから、もし、練習を軽く見るようなふうがあるならば、民族の将来のために、たがいに戒めなければならない。

〔東京書籍株式会社、『新しい国語』（6下）による〕

ことばの説明

潜水艇〔せんすいてい〕

操縦〔そうじゅう〕

飛行士〔ひこうし〕

手足〔てあし〕

別種〔べっしゅ〕

身のまわり〔みの回り〕

見わたす〔みわたす〕

バット (bat)

打ち当てる〔うちあてる〕

人間わざ〔にんげんわざ〕

投手板〔とうしゅばん〕

本塁〔ほんるい〕

高飛びこみ〔たかとびこみ〕

衝撃〔しょうげき〕

突入〔とつにゅう〕

勇者〔ゆうしゃ〕

すくむ〔竦む〕

潜水艇

駕駛

飞行员

手和脚，四肢

另一种类

日常生活

环视

球棒

击中

人力，人的技术

投手板

（棒球）本垒

跳台跳水

冲击，冲撞

突入，冲进

勇士，勇敢的人

畏缩

ひるむ〔怯む〕
美德〔びとく〕

畏惧，害怕
美德

練習Ⅰ

1. 「……、今は、それは夢ではなくなろうとしている」にある「なろうとしている」の意味として、次のどれが適当なのか。
 - a. なるという状態がこれから始まる。
 - b. なるという状態がもう始まっている。
 - c. なるという状態がもう終わった。
2. 「宇宙旅行という不可能を可能にする仕事に、多くの発明が使われるとともにきびしい練習が積まれているのである」にある「ともに」と同じ意味のものを、次の中から一つ選びなさい。
 - a. 女中をおともににつれていくことにしました。
 - b. 長い間、苦しみをともにしてきた友だちだ。
 - c. 卒業して社会へ出るのは、嬉しいとともに心配でもある。
3. 「生まれたままの人間は、水に落ちるとおぼれて死ぬ」にある「まま」は、次のどの意味に当てはまるか。
 - a. なりゆきにまかせること。
 - b. 思うとおりの状態。
 - c. その状態のとおりであること。
4. 「飛び込みの選手がかぶっている布の帽子は、練習を続けているうちにさけてぼろになってしまうという」にある「うち」と同じ働きのを、次の中から一つ選びなさい。

- a. 朝のうちにやってしまったなければならない。
 - b. 三人のうちでだれが一番年長ですか。
 - c. 私の心のうちはだれにもわかってもらえない。
5. 「しかし、おそれにひるまないということはりっぱな人間の美徳である。」にある「に」と同じ働きのものを、次の中から一つ選びなさい。
- a. 日本は経済力に富んだ国だ。
 - b. あまりのおかしさに思わずわってしまった。
 - c. 昨年に倍する売れ行きである。

練習Ⅱ

1. 「思いのままに投げるとあつては、ほとんど信じがたいと言うほかないであろう」の言い換えとして、次のどれが正しいと思うか。
- a. 思いのままに投げるということでは。
 - b. 思いのままに投げるとあることは。
 - c. 思いのままに投げるといっては。
2. 「ほとんど信じがたいと言うほかないであろう」という文の意味は、次のどれに当たるか。
- a. ほとんど信じてもいいと言うべきであろう。
 - b. とても信じられないと言うべきであろう。
 - c. ほとんど信じるのが難しいと言えないであろう。
3. 「初めてこの台に立った者は、だれでも、おそれずにはいられないだろう」にある「おそれずにはいられない」の意味として、最も近いものを次の中から選びなさい。

- a. どうしてもおそれたくなる。
- b. おそれるのをおさえることができない。
- c. おそれないわけにはいかない。

4. 練習のよさとして最も適当なものを次の中から選びなさい。
- a. 不可能を可能にすることができる。
 - b. 肉体的能力ばかりでなく、精神的能力も高められる。
 - c. 不可能を可能にできるとともに、肉体的・精神的能力も高められる。

練習Ⅲ

次の文を読んで後の問いに答えなさい。

名人への道

「かれも人間、われも人間、かれにできることで、われにできないわけではない。」こういうことばがある。だが、人間は一足とびに名人になるわけにはいかない。碁・将棋の名人と初心者との間は、ずいぶん差があるであろう。両方とも人間には違いないが、年期の入れ方が違い、精神の使い方が違う。

そのように、どんな仕事でも全精神をこめて仕事をする者が、五年十年二十年と同じ仕事に、同じように熱心に力を集中すれば、ついには他の人にはできないことを平気でやってのけるようになるであろう。それは、一朝一夕の^{いつちよういつせき}骨折りではできない。

問1. 「そのように、どんな仕事でも全精神をこめて仕事をする

者が、……」にある「そのように」はどんなことを指しているか、次の中から一つだけ選びなさい。

- a. 碁・将棋の……ずいぶん差がある。
- b. 両方とも人間……使い方が違う。
- c. 碁・将棋の……使い方が違う。

問 2. 「ついには他の人にはできないことを平気でやってのけるようになるであろう」にある「やってのける」の意味として次のどれが適当なのか。

- a. 思いきってやりとおす。
- b. やりにくいことをうまくしとばる。
- c. 思いのままにむりにやっていく。

問 3. この文中における「骨折り」の意味は次のどれにあてはまるか、一つ選びなさい。

- a. 一生懸命働くこと。
- b. 努力すること。
- c. 骨折すること。

第二課 東京の悩み

現在東京の人々が困っている問題を幾つか挙げてみましょう。

東京は日本の首都であり、また政治、経済、文化の中心地となっているため、日本全国から人々が集まってきています。東京の面積は日本全土の0.5パーセントにしか過ぎません。そこで全人口の約11パーセントもの人々が生活をしているのです。この人口集中が現在起こっているいろいろな問題の主な原因となっています。

まず第一に挙げられるのは住宅問題です。限られた狭い所に大勢の人が住んでいるので、家も土地も足りなくなるわけです。たまに空いた土地があっても、値段が高すぎて簡単には買えません。その結果、自分の家を持つことができずに、借家やアパートの狭い部屋で生活をしている人が東京には大勢います。住まいは人間の生活になくてはならぬものですから、これは極めて重要な問題であるといえるでしょう。

次に交通の問題があります。東京にある会社や役所などは都心に集まっています。日本では、会社や役所の勤務時間はどこでもだいたい9時から5時までと決まっていますから、この辺に勤めている大勢のサラリーマンたちは毎朝同じような時間にここに集まり、毎晩同じような時間にここから帰っていくわけです。東京ではほとんどの人が通勤、通学に電車を利用しています。そのため、朝8時ごろと夕方6時ごろの電車はサラリーマンたち、それに学校へ通う学生たちが加わって、大変込み合います。特に朝のラッシュ・アワーの混雑はものすごく、電車に乗れないでプラットホームに残されることも珍しくありませ

ん。また、通勤、通学にかかる時間は1時間から1時間半ぐらいが普通で、中には2時間以上かかる人もいます。それは、通うのに便利な場所に家を持つことが難しくなり、都心をずっと離れた所に住む人が多くなったからです。この交通の問題も、東京に住む人にとって大きな悩みです。

次に挙げられるのはごみ処理の問題です。人間はごみを出さずに生活することはできません。部屋の整理をしたり炊事をしたりすればもちろん、たばこを吸ってもお菓子を食べてもごみは出てきます。工場からは工場のごみが、家庭からは家庭のごみが出てきます。そして、このごみの量は、当然、生活している人の数に比例して多くなります。東京の人口は日本一ですから、出るごみの量も大変なものです。この沢山のごみをどう始末するかは決して簡単な問題ではありません。焼く場合にしても、埋める場合にしても、その場所が問題になります。狭い土地に人口が集中している悩みはこんなところにも現れているのです。

東京にはそのほかにも、自動車の排気ガスなどに因る「大気汚染」の問題、工場や家庭からの排水のために川の水が濁ってしまうという「水質汚濁」の問題、また夜通し走る自動車の音で寝られないとか、家が密集しているため隣の家物音で迷惑するとかいった「騒音」の問題など、いわゆる「公害」があって、ここに住む人々の大きな悩みとなっています。

〔日本語教育学会，日本事情シリーズ「東京」による〕

ことばの説明

幾つか [いくつか]
空く [あく]
借家 [しゃくや]

若干，几个
空，闲
出租的房屋